

八間堀川への流入水路に着目したタイムライン検討会
(第 1 回コアメンバー会議)

【日 時】

平成 29 年 11 月 17 日 (金) 9 時 00 分から 10 時 40 分

【場 所】

常総市役所 1 階市民ホール

【参加者】

筑波大学：白川直樹准教授

常総市：神達市長、染谷室長（市長公室）

：横島課長、小林課長補佐（防災危機管理課）

：小室部長、猪瀬課長（経済環境部）

：沼尻課長補佐、長瀬課長補佐（農政課）

：木村部長（都市建設部）

：戸塚課長、生井課長補佐（道路維持課）

：石塚課長、佐内課長補佐（道路建設課）

下館河川事務所：里村事務所長、石田副所長、金森管理課長、成田専門官、浅野鎌庭出張
所長

茨城県：栗林技佐（茨城県河川課）

：丹次長兼道路河川整備課長、青川係長（常総工事事務所）

建設技術研究所：森田氏、古賀氏

【資 料】

議事次第、参加メンバー(予定)、八間堀川への流入水路に着目したタイムラインについて

■ 議事内容

議事：八間堀川への流入水路に着目したタイムライン（案）作成に向けて、目指す成果、取り組みの進め方について

<神達市長>

- 平成 29 年 10 月に発生した台風 21 号において八間堀川周辺で浸水被害が発生した。どのタイミングで樋門・樋管を閉めるかを明確にするとともに、住民に理解してもらう必要がある。
- 住民からは、平成 27 年出水と同じ状況で、教訓が活かされていないと厳しい意見を賜っている。
- 下館河川事務所、茨城県と連携し、浸水被害の軽減に取り組む必要がある。

<目指す成果>

- 今回の会議の目指す具体的な成果として、タイムラインを作成し情報伝達演習を実施することを確認した。
- この地域は鬼怒川と小貝川に挟まれた低平地であり、雨が降ると浸水しやすい（水に弱い）地形特性である。地形特性や冠水メカニズムをわかりやすく説明・共有し、浸水被害の軽減を目指す。

<取り組みの進め方>

- 取り組みの進め方と工程は、①各機関の防災行動を把握・整理（11 月）、②タイムライン（案）の作成（12 月）、③情報伝達演習シナリオ等の作成（1～2 月）、④タイムライン（案）を活用した情報伝達演習の実施（3 月）とすることを確認した。
- タイムラインは、行政側だけでなく、住民も含めた形で進めることとする（相互に連絡）。

<検討参加機関>

- 検討参加機関は、常総市（市役所、自治会、消防団）、常総地方広域市町村圏事務組合消防本部、江連八間土地改良区、茨城県、国土交通省下館河川事務所、気象庁水戸地方気象台、国土地理院関東測量部、学識経験者（筑波大学白川准教授）とすることを確認した。

<タイムラインの作成>

- 今回作成するタイムラインの対象とする事象は台風 21 号など特定の事象ではなく、一般論としての出水をイメージして検討を進める。
- 一般的なタイムラインは、「台風発生時」等から想定を開始するが、八間堀川への流入水路に着目したタイムラインは、かなり短い時間の事態を想定する必要があるため、水位

が高くなる数時間前～半日程度を想定することとした。

- タイムラインの 0 分を何に設定するのか。シナリオを設定することが必要である。
- 樋門・樋管の操作規則は、原則変更しない方向で検討を進めることとした。ただし、現状がどうなっているのか不明なため、タイムラインで横に並べることで不整合が生じた場合や操作規則が明確でない場合、見直しを検討することも考えられる。
- 樋門・樋管の操作実施などの行動開始基準は、これまで通り河川水位として検討することとした。

以上